

教室環境の工夫

(物的環境の工夫)



『わかりやすい』『見たらわかる』という視点で工夫しましょう!

視覚的な情報を理解することが得意な児童生徒もいます。授業や活動に、安心して、参加しやすい環境づくりをすすめていきましょう。

QRコードを読み取って、ほかの工夫や資料を見てみよう! 随時追加していくピー!



●場の構造化



準備や片付けがしやすいように必要な物・場所(位置)がわかる工夫



ロッカーの整理の仕方を掲示し、自分で気付いて整理できる工夫



教科書やノートの置き方等、机上の整理の仕方を伝えることで、学習に取り組みやすくする工夫



足形があることで、止まること(安全確認)の必要性に気付く工夫

※構造化
...周囲の環境(場所・時間・空間等)をわかりやすく、視覚的に整理すること

●時間の構造化



見えにくい時間の流れや「あと〇分」を視覚的に捉え、見通しを持って取り組めるようにタイマーやアプリ等を活用

●刺激量の調節



前面の掲示は精選し、より学習に集中できるようにする工夫



音が出ないようにし、指導者や友だちの発言等に集中できるように工夫

●その他、集中できる環境づくりの工夫例

- 指導者の声...話すスピード、声の大きさ、緩急のある話し方や声のトーン
 - 座席の位置
 - 掲示物
 - 光や温度、水槽の音や廊下を歩く音
 - 文字のフォントや色の組み合わせ
- ※具体例は左上のQRコードを読み取って見てみましょう。

接し方の工夫

(人的環境の工夫)



指導者自身が一番大きな環境です。工夫できることがたくさん!

教室が心理的に安心・安全な居場所となるように、あたたかい学級づくりが大切です。指導者自身が一番大きな環境であることを意識して関わりましょう。よりよい「言語」「行動」「思考」のモデルとなりましょう。



- 「なぜ」の視点で、児童生徒の言動の背景を考えましょう。
※大切にしたい実態把握の視点について、QRコードを読み取って見てみましょう。
- 自分の「よさ」「得意な面」に気づけるような関わりをしましょう。児童生徒のやる気やよりよい指導・支援にもつながります。
- 児童生徒の思いや考えを聴き、それぞれの考え方を認め合う関係づくりを意識しましょう。
Aさんは、そう考えているんだね。
先生は...と考えるよ。...と考える人もいますよ。
担任は、一番のよき聞き手
- 担任が、一番身近なモデルになりましょう。
(例)声をかけられたら相手に正対して(身体を向けて、していることを止めて)話を聴く。

●「～してはダメ」と否定的な表現ではなく「～しよう」と肯定的な表現を心がけましょう。具体的な言動を伝えることですべきことがわかりやすくなります。

△書くのをやめて。
○鉛筆を置きましょう。



△走っちゃダメ。何度も言っているでしょ。
○危ないから歩こう。みんなが安全にすごせるように行動しよう。

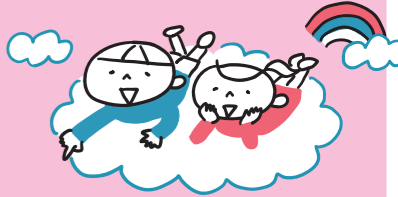
- 不適切、危険な行動については、その行動を指摘し(人格を否定しない)、行動の仕方や解決策を共に考えましょう。
- よいモデルとなる言動や行動を切り替えようとしている姿を褒めて、児童生徒の適切な言動を増やしましょう。
- 結果だけでなく、学習の過程や児童生徒の頑張りを認め、児童生徒の行動を意味付けたり、褒めたりしましょう。経験や間違いを意味付けて児童生徒と共有することで、児童生徒が自身の成長に気付いたり、次の活動への意欲を高めたりできるようにしましょう。

授業づくりの工夫



『学びやすい』授業となるような工夫もいろいろ!

教室環境や接し方を工夫するだけでなく、授業の中での「わくわく」や「できた!」「なるほど!」を増やしていきましょう。児童生徒が学習の目的や内容を理解し主体的に取り組めるような手立てを行い、「わかる」「できる」授業づくりを工夫しましょう。

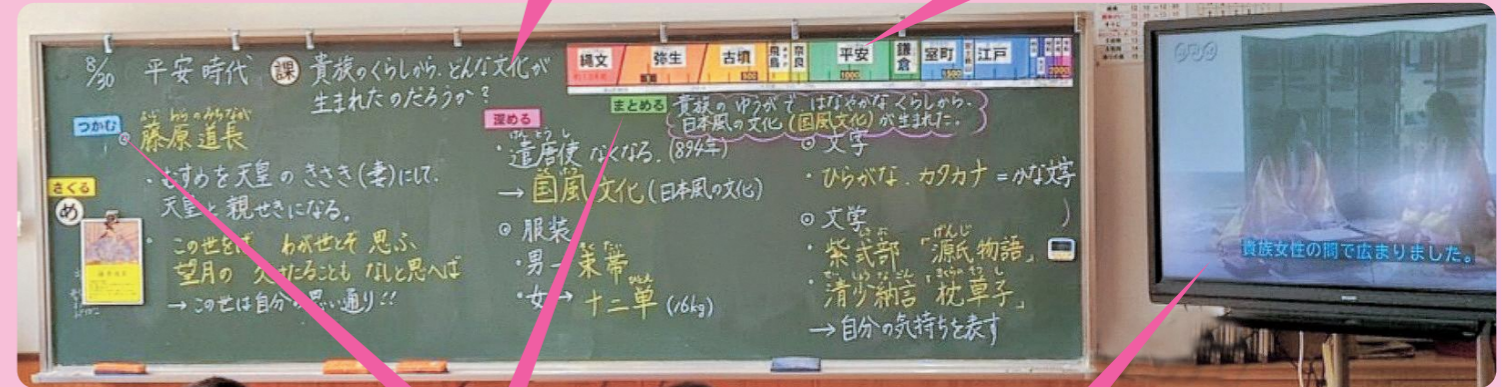


●学習するために必要な情報を児童生徒にわかりやすく提示(小学校・社会科)

児童生徒が学びを振り返ることのできる板書の工夫

ねらいや授業のめあて(課題)の明確化

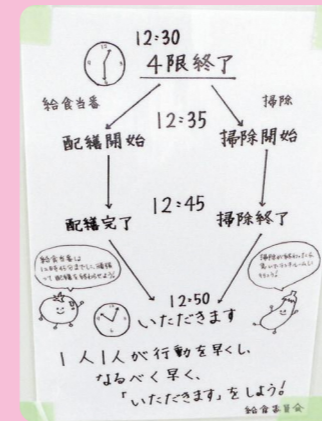
学んでいる時代や歴史のつながりがわかるような手がかりの工夫



思考の手がかりとなるキーワードをカード化して提示

学習内容への興味・関心を高めたり、理解や思考を深めたりするためにICT機器を活用

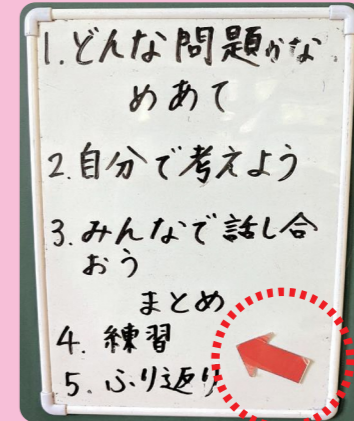
●授業の流れや、はじめと終わりを具体的に提示



文字と合わせて、図(フローチャート)で伝えることで、時間の経過を見てわかりやすくする工夫

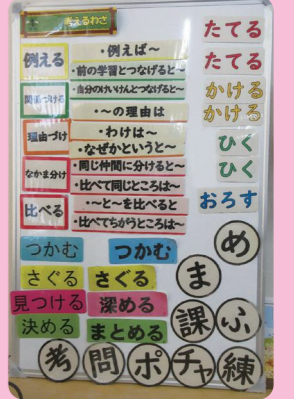


イラストで文字情報を補い、見通しをもって取り組めるようにする工夫



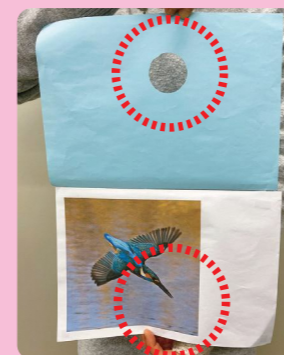
矢印等で示すことで今、取り組んでいる活動に気付く工夫

●思考・言語活動のモデルを可視化



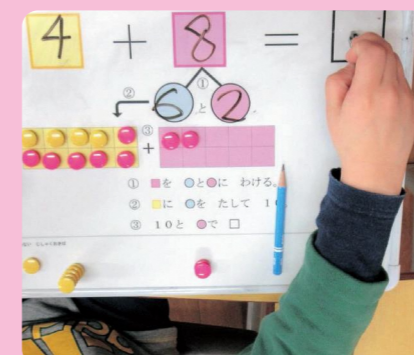
思考の手がかりや表現のモデルをカードにして見える化する工夫

●注目すべき部分にひきつける教材



注目して欲しい部分にひきつけて、意識を向けることで思考を深める工夫(小学校・国語)

●具体物や視覚的な情報の活用



視覚的な情報や半具体物を操作しつつ理解につなげる工夫

わかりやすい指示

- (工夫例)
- 「練習問題の～番をしましょう。」と指示を出しながら、教科書の該当場所を指差す。
 - 「ちゃんと」「きちんと」等ではなく具体的に明確な指示を出す。
- ◎「この後することは、2つです。」
1. プリントを先生の机の上に出します。
2. ドリルを準備します。この2つをしましょう。」
- △「ちゃんと、やることをしてください。」